

## 1 学校関係者評価委員会での評価と意見聴取

- ・児童は家の前を通るとき、大きな声であいさつをしてくれるので、たくさんの元気をもらっている。挨拶は鶴川小学校の良き伝統となっている。
- ・児童アンケートの項目で、友達と助け合いながら仲良く学校生活を送っている児童の割合は86%である。しかし、仲良く学校生活を送っていない児童は14%いるということになるので、これらの児童に目を向けて仲良く学校生活を送れるように取り組んでほしい。
- ・不審者情報をよく聞くので、子どもの安全のために不審者の情報を共有できればよい。地域や警察、学校等が情報を交流できる機会を設けてほしい。
- ・先行き不透明なコロナ禍である。いつでもオンラインで授業ができるようにタブレットの利活用をお願いしたい。

## 2 成果と課題

### 《成果》

- ・教師がICTを効果的に活用し授業を行うことができたので、児童の課題解決に向けての意欲が高まり、授業の中での学びが深まった。
- ・児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のより良い人間関係の構築に努めた結果、児童アンケートでは、友達と一緒に遊んだり活動したりするのは楽しいと答える児童が100%であった。また、先生は自分の話をよく聞いてくれると答えた児童も100%であった。教師との信頼関係が築かれている。
- ・2学期はコロナ感染予防策をとりながら、計画的にゲストティーチャーを活用した授業や校外学習を行うことができた。直接お話を聴いたり、体験したりすることで児童の心に響き、学ぶことが多くあった。

### 《課題》

- ・生活アンケートの結果によると、ゲーム・インターネット視聴2時間以内を守っている児童は29%である。家庭でのルールを守っていないので、ネット依存等の学級指導を行い、家庭との連携を図りながら基本的な生活習慣の向上を目指していく。
- ・家庭学習強化週間は時間を意識して集中して取り組んでいる。しかし、他の日は宿題だけをして終わっている児童が多い。家庭学習の内容を充実させ目標時間まで学習をする指導をしていく。
- ・朝読書では静かに全員が本を読んでいるが、朝読書以外の時間で本を読んでいる児童は8割程である。毎月親子で読書をする読書週間を設定し取組を工夫することで、家でも読書をする習慣を身に付けさせたい。